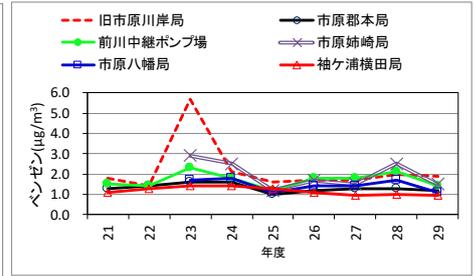
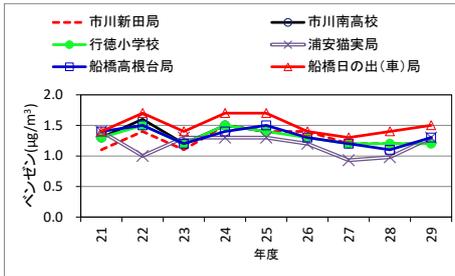
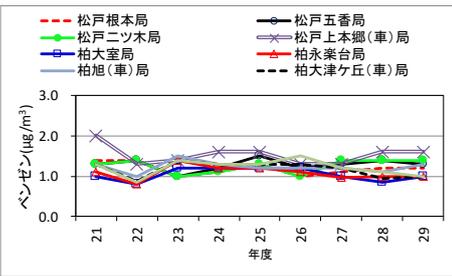
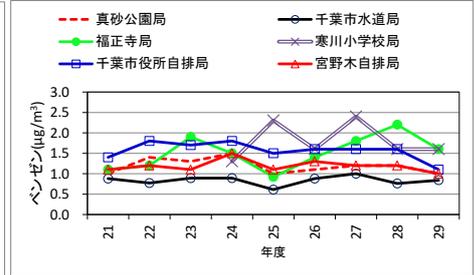
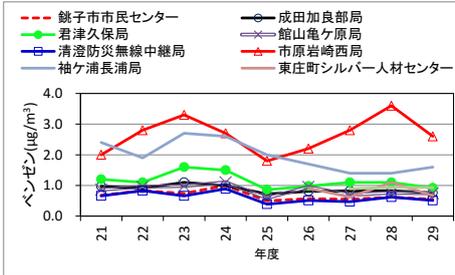
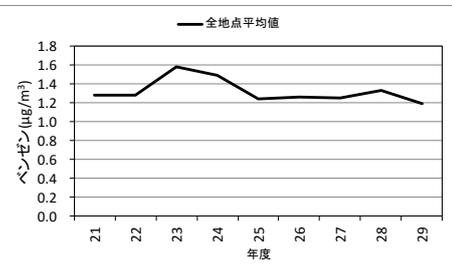
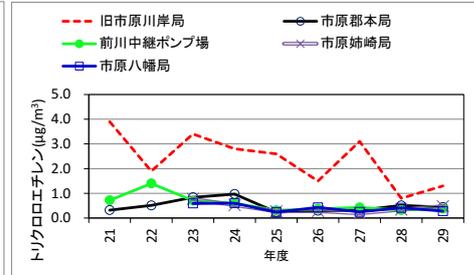
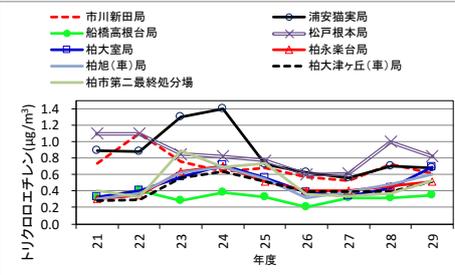
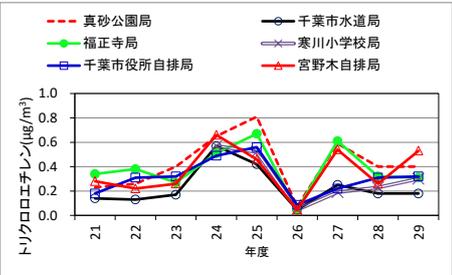
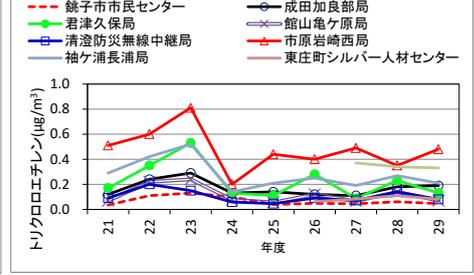
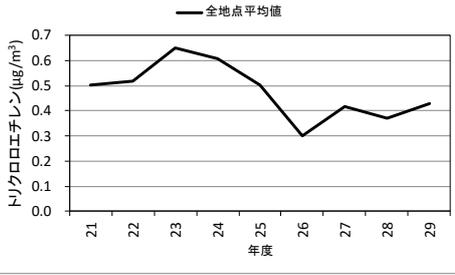


1-6 環境基準が設定されている4物質の経年推移(測定実施機関毎にグラフを作成。なお、参考値についてもグラフ化した。全地点平均については参考値を除いて作成した。)

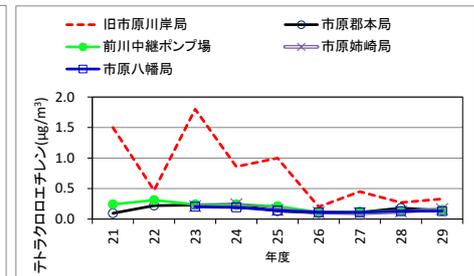
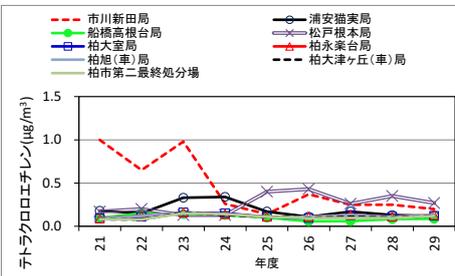
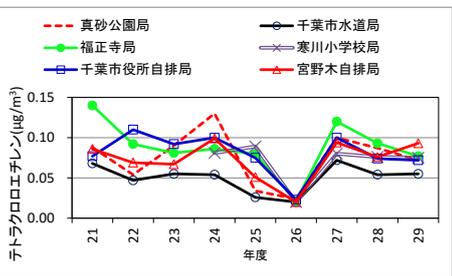
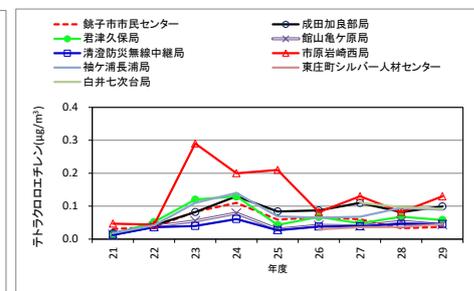
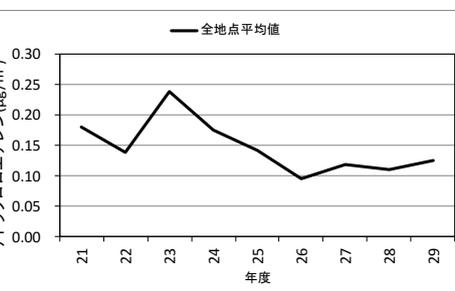
ベンゼン: 全地点平均では平成23、24年度が若干濃度が上がったが、平均的には1.2~1.3 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ で推移した。地点別では、多くの地点が1~2 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ の範囲で推移した。市原市岩崎西局は濃度が高く、23、28年度と環境基準を超過し、旧市原河岸局も23年度に環境基準を超過した。



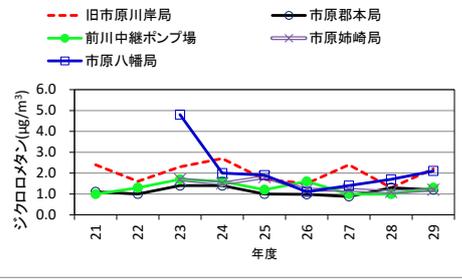
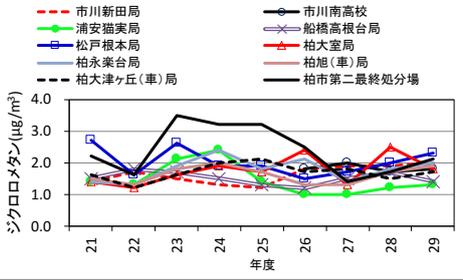
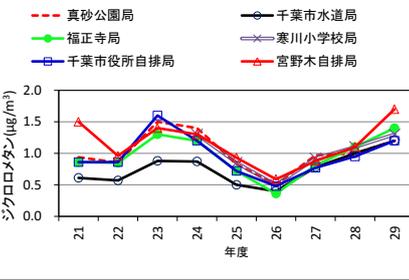
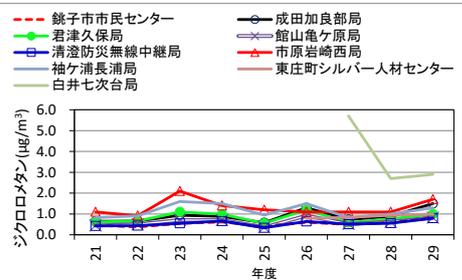
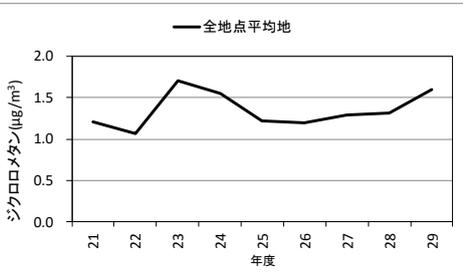
トリクロロエチレン: 全地点平均では平成23年度をピークに減少傾向にあったが、27年度以降は横ばいの傾向を示した。地点別では、旧市原河岸局の濃度が他地点に比べ高い傾向があった。



テトラクロロエチレン: 全地点平均では平成23年度から26年度にかけて減少したが、26年度以降は横ばい傾向となった。地点別では、旧市原河岸局の濃度が他地点に比べ高い傾向があった。松戸根本局も25年度以降、旧市原河岸局に次いで高い濃度を示した。

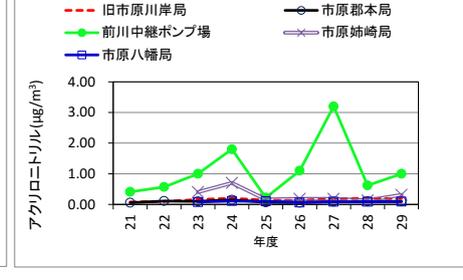
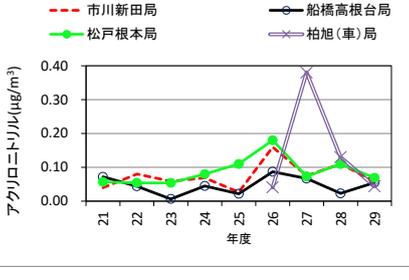
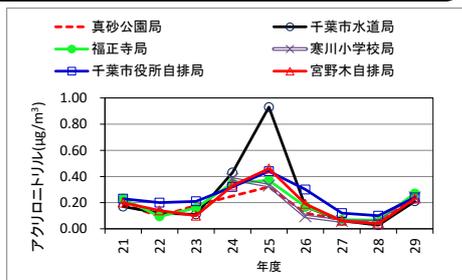
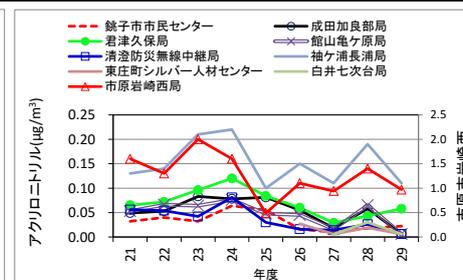
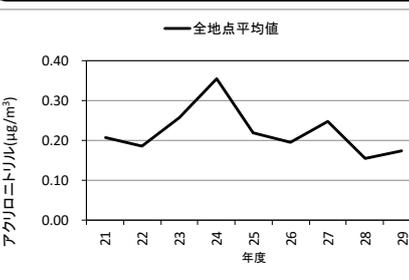


ジクロロメタン:全地点平均では、平成23、24年度に濃度が上昇し、25年度からはやや上昇の傾向が見られた。地点別では、白井七次台局が他地点に比べ高い濃度を示した。

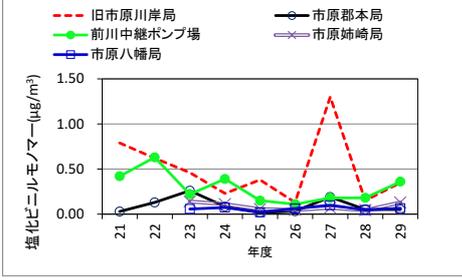
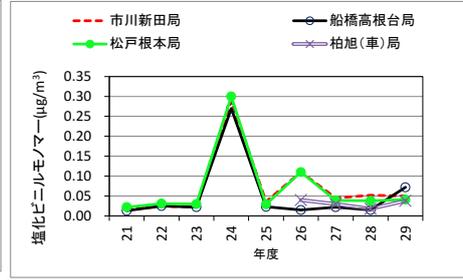
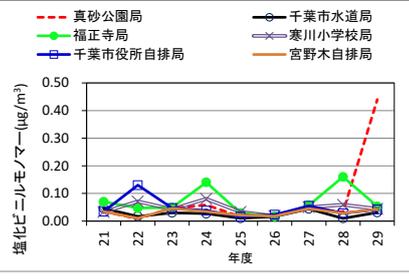
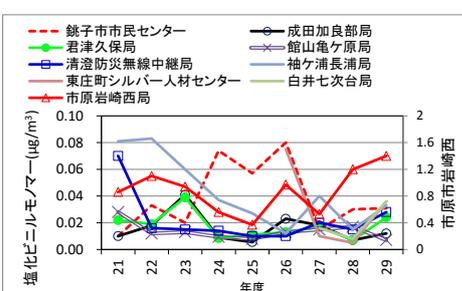
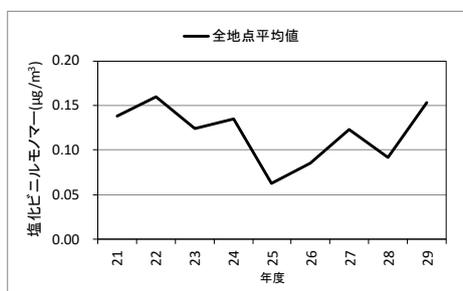


1-7 指針値が設定されている9物質の経年推移(測定実施機関毎にグラフを作成。なお、参考値についてもグラフ化した)が、全地点平均については参考値を除いて作成した。)

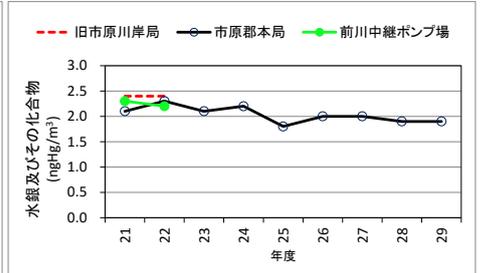
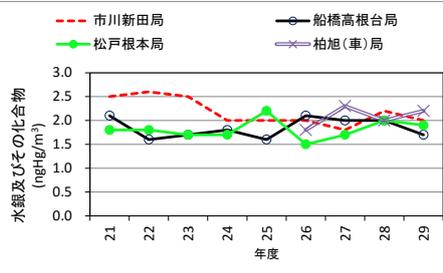
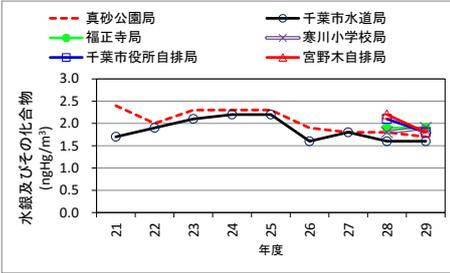
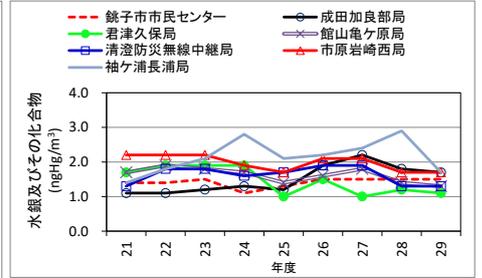
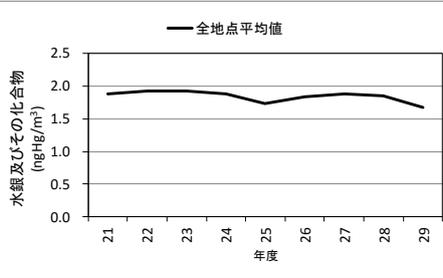
アクリロニトリル:全地点平均では平成24年度をピークに低下傾向を示した。地点別では市原岩崎西局、前川中継ポンプ場の濃度が他地点に比べ高く、前川中継ポンプ場は27年度に指針値(3.0 µg/m³)を超える濃度を示した。



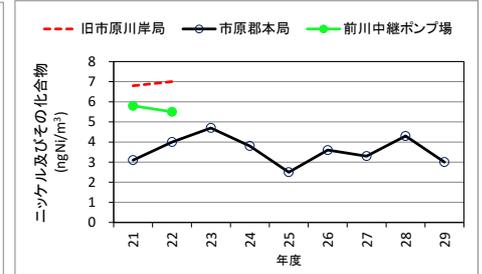
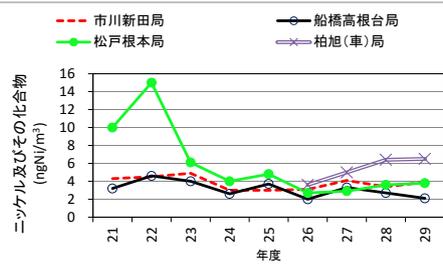
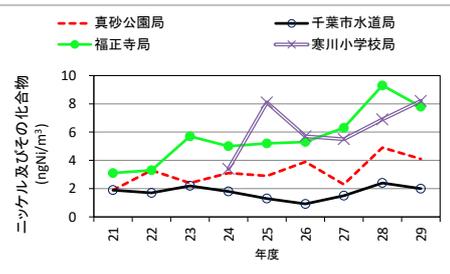
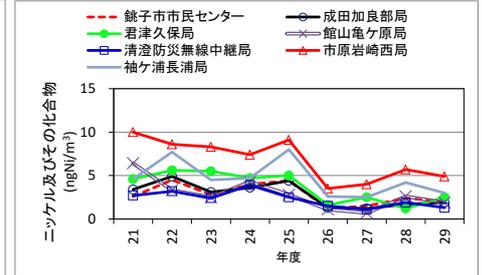
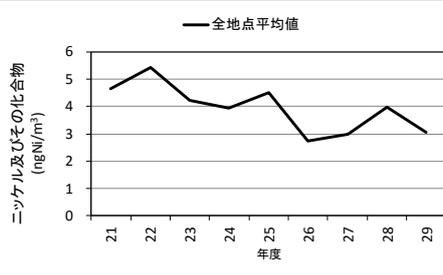
塩化ビニルモノマー:全地点平均では平成22年度をピークに25年度にかけて大きく減少したが、それ以降は上昇傾向を示した。地点別では、市原岩崎西局、旧市原河岸局が他地点に比べ高い傾向が見られた。地点毎の推移は変動が大きく、一定の傾向は見られなかった。



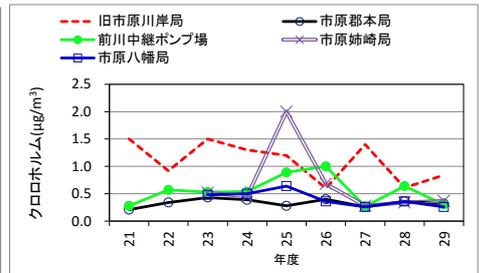
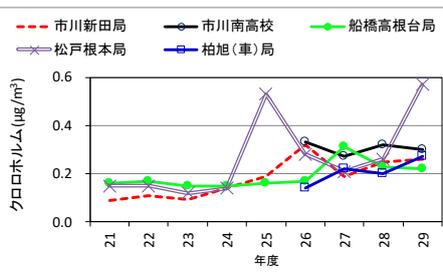
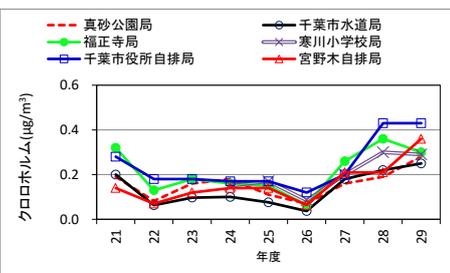
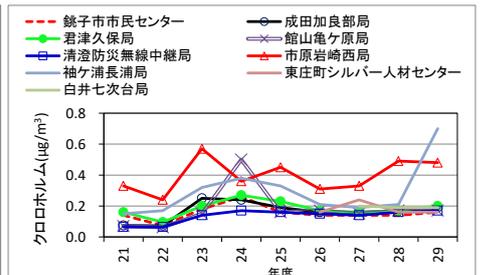
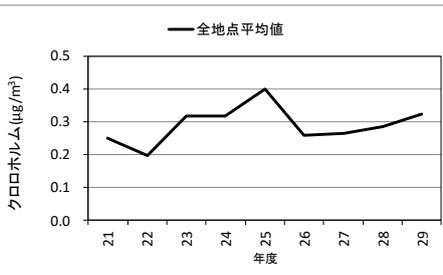
水銀及びその化合物:全地点平均ではほとんど横ばいで推移した。各調査地点においてもほぼ横ばいの地点が多かった。また、各地点における濃度レベルには大きな差は見られなかった。



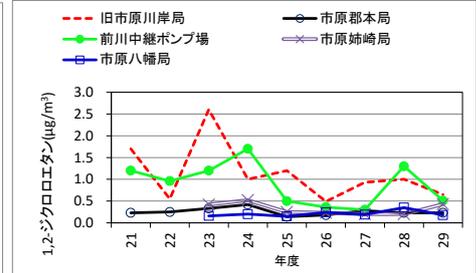
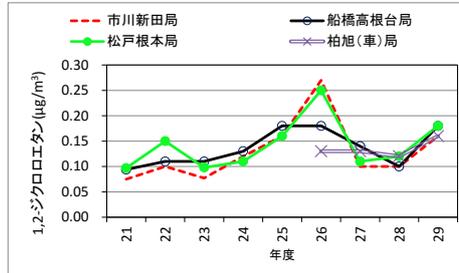
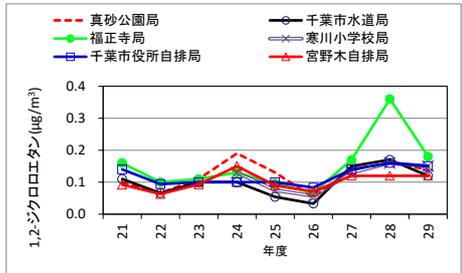
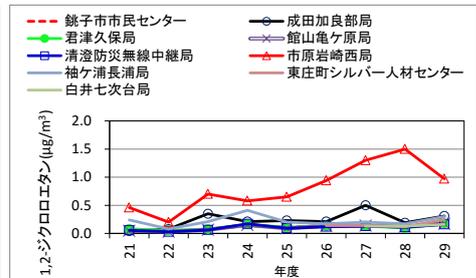
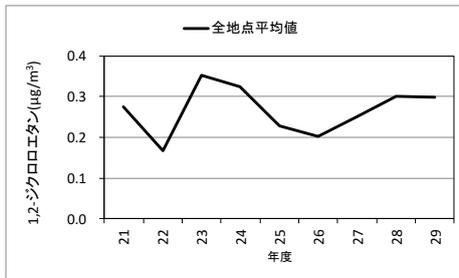
ニッケル及びその化合物:全地点平均では平成22年度をピークに26年度にかけて減少したが、それ以降は緩やかな上昇傾向を示した。地点別では、福正寺局や、寒川小学校局が近年は高い濃度を示した。



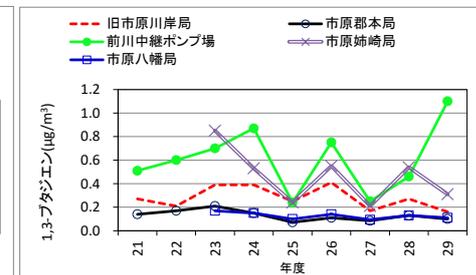
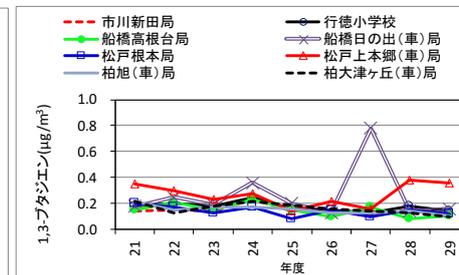
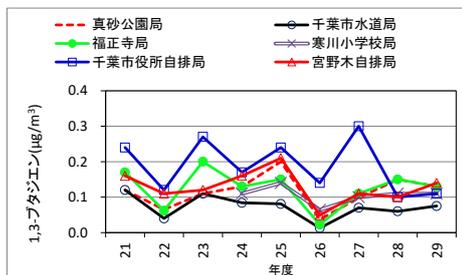
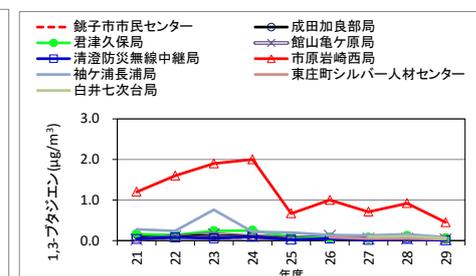
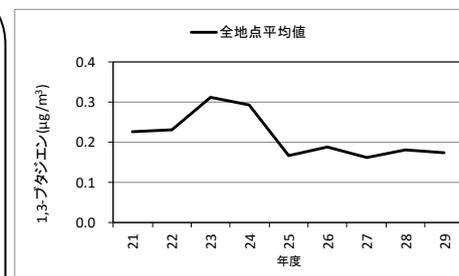
クロロホルム:全地点平均では平成25年度にピークとなり26年度には減少した。それ以降は緩やかな上昇傾向を示した。地点別では、千葉市の各地点、柏旭(車)局、市原岩崎西局が26年度以降上昇傾向を示した。他の地点には一定の傾向は見られなかった。



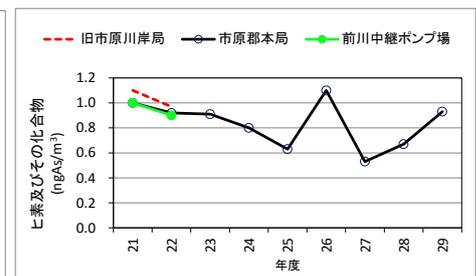
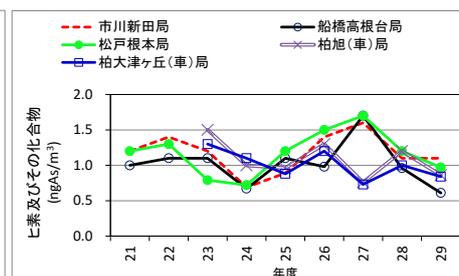
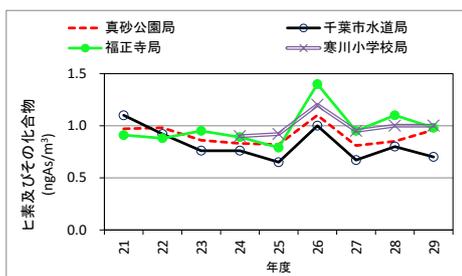
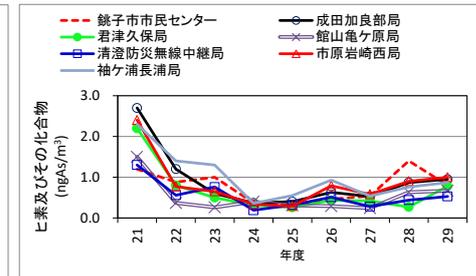
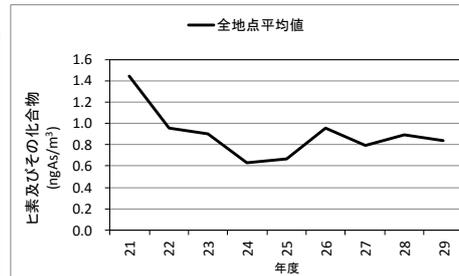
1,2-ジクロロエタン:全地点平均では平成23年度をピークに26年度にかけて減少したが、それ以降はやや上昇傾向を示した。千葉市の地点及び市原市岩崎西局は26年以降、やや上昇傾向にあった。



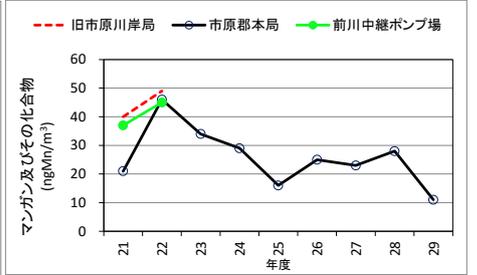
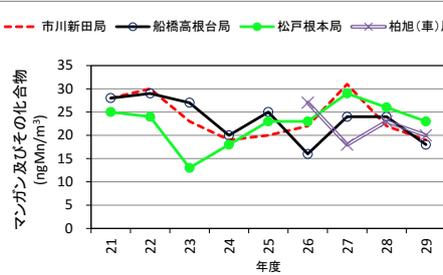
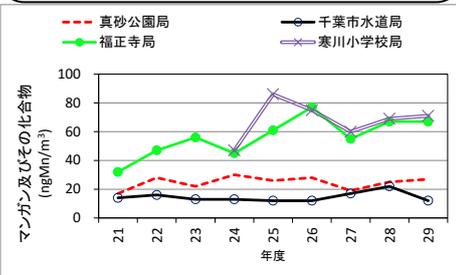
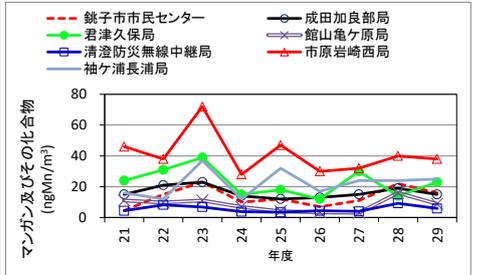
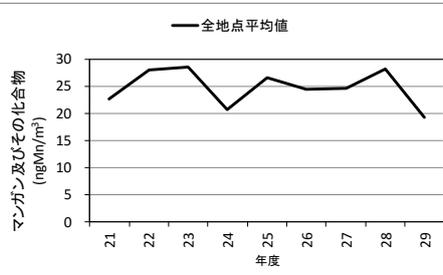
1,3-ブタジエン:全地点平均は平成23年度をピークに25年度にかけて大きく減少し、それ以降は横ばい傾向を示した。市原市岩崎西局の濃度は他地点に比べて高く24年度までは $1.0 \mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えていた。袖ヶ浦長浦局、船橋日の出局、前川中継ポンプ場は $0.5 \mu\text{g}/\text{m}^3$ を超える年度があり、前川中継ポンプ場は29年度に $1.0 \mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた。



ヒ素及びその化合物:全地点平均は平成21年度から24年度にかけて減少し、それ以降はゆるやかな上昇傾向を示した。21年度は成田加良部局、市原岩崎西局、君津久保局が $2.0 \text{ngAs}/\text{m}^3$ を超えていたが、22年度以降はほぼ横ばいの傾向となった。28年度以降は全地点で $1.0 \text{ngAs}/\text{m}^3$ 前後の濃度となった。

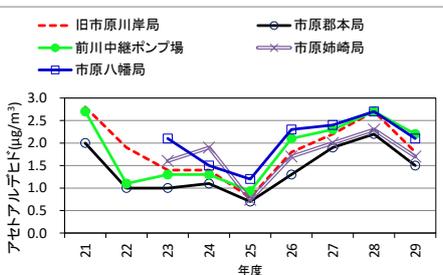
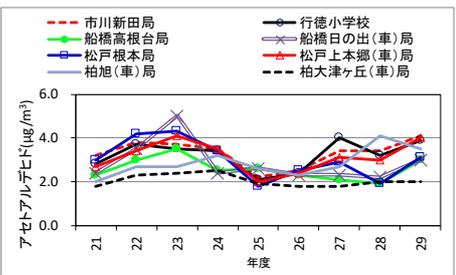
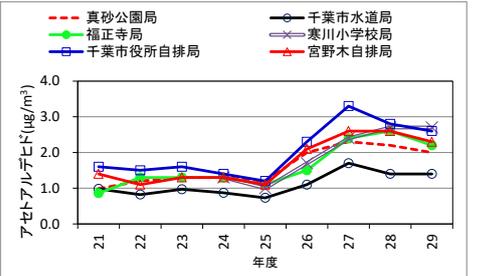
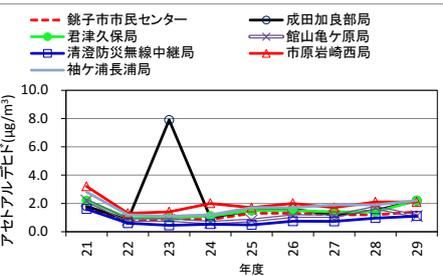
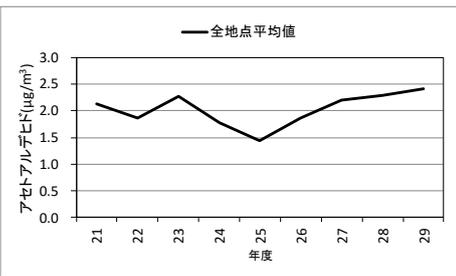


マンガン及びその化合物:全地点平均は変動が小さく、ほぼ横ばいで推移していたが、29年度は濃度の高い千葉市の地点が参考値となったため、平均値は減少した。地点別では横ばいの地点が多いが、市原郡本局は減少傾向を、福正寺局、寒川小学校局は緩やかな上昇傾向を示した。濃度的には福正寺局、寒川小学校局が60ngMn/m³を超える年度が多かった。

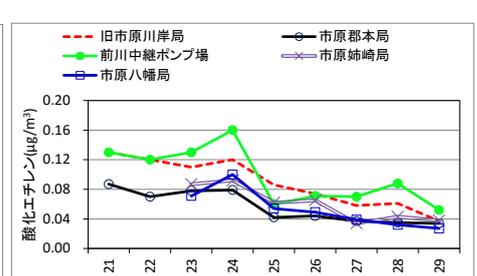
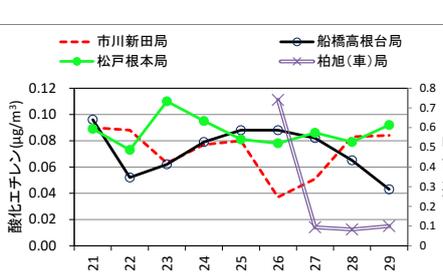
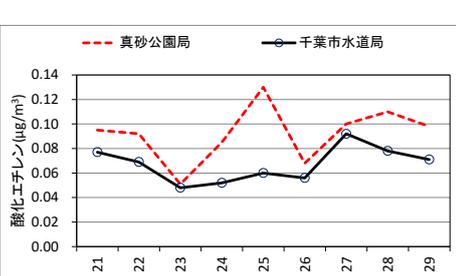
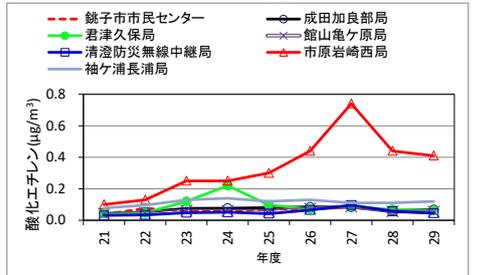
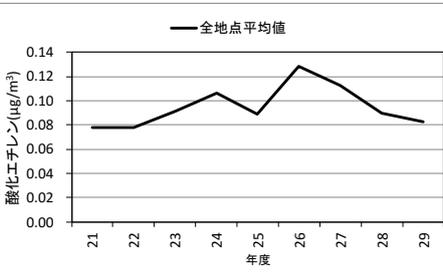


1-8 環境基準、指針値ともに設定されていない物質(測定実施機関毎にグラフを作成。なお、参考値についてもグラフ化した。全地点平均については参考値を除いて作成した。)

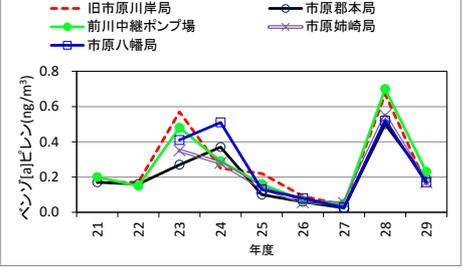
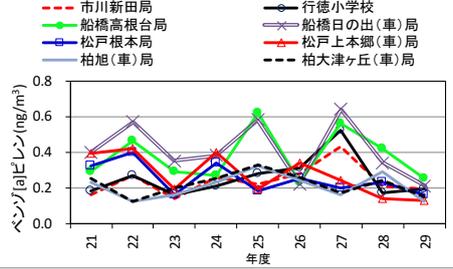
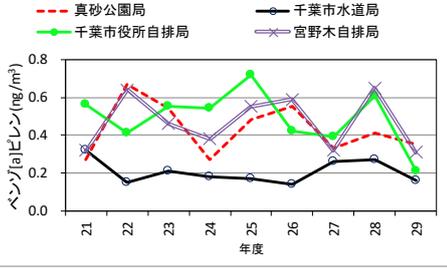
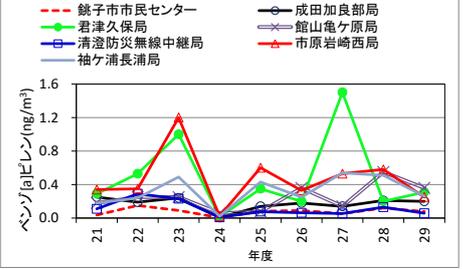
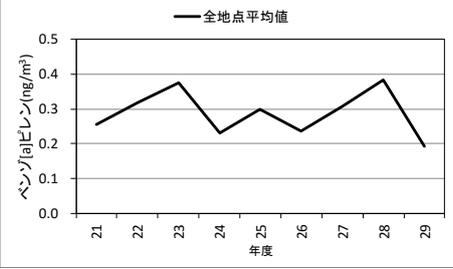
アセトアルデヒド:全地点平均では平成23年度から25年度にかけて低下し、25年度以降上昇傾向を示した。地点間の濃度差は小さく、29年度では1.1 μg/m³から4.1 μg/m³の間にあった。千葉市、市原市、市川市の地点や松戸上本郷局、柏旭(車)局は25年度以降上昇傾向を示したが、他の地点はほぼ横ばい傾向を示した。



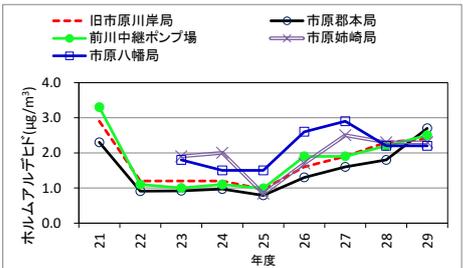
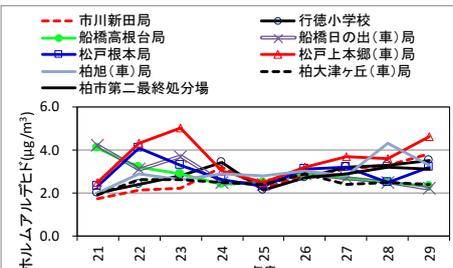
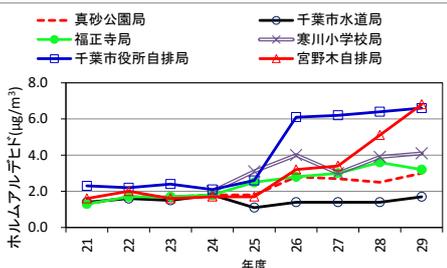
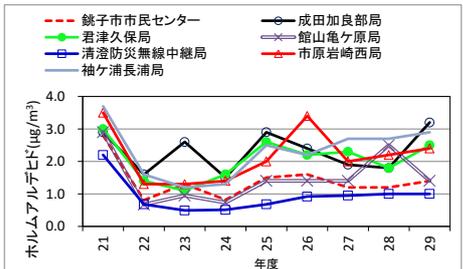
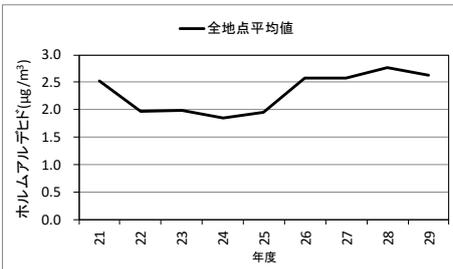
酸化エチレン:全地点平均では平成26年度にピークがあり、その後低下した。市原市岩崎西局の濃度が高く27年度まで上昇傾向にあった。柏市旭(車)局は26年度0.7 μg/m³を超えたが、以後は0.1 μg/m³以下となった。市原市の地点はやや減少傾向にある。



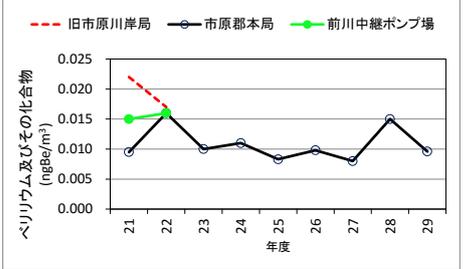
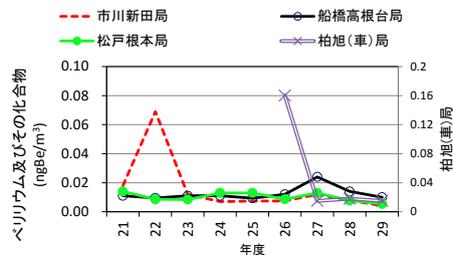
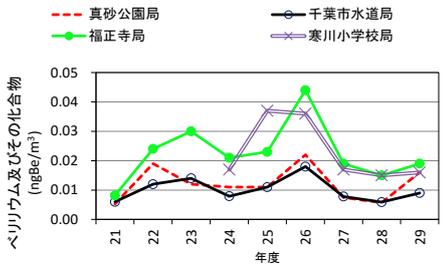
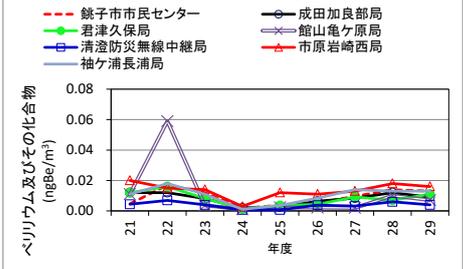
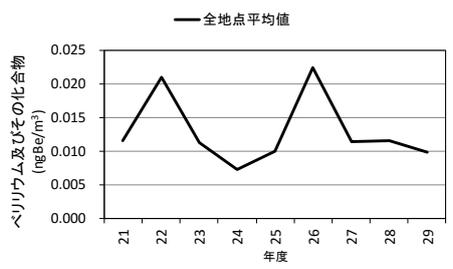
ベンゾ[a]ピレン：全地点平均では経年的な傾向は見られなかった。各地点の濃度についても、年度によって変動が大きく傾向は見られなかった。



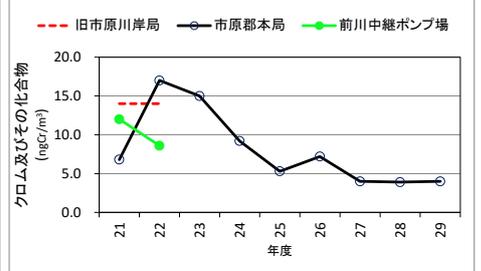
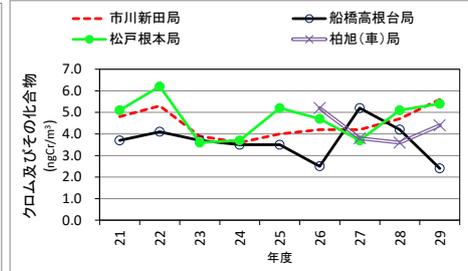
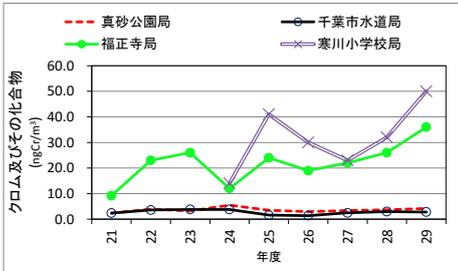
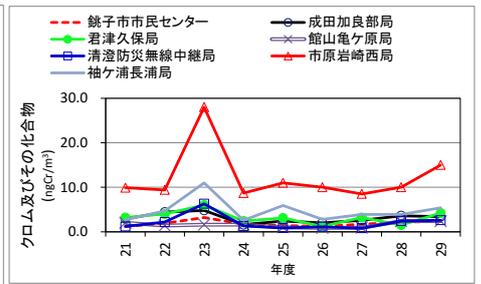
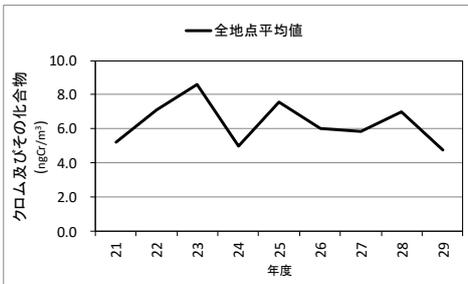
ホルムアルデヒド：全地点平均では平成22年度から25年度までは横ばい、26年度に以降上昇したが、その後は横ばい傾向を示した。地点別では、市原市の地点、千葉市役所自排局、宮野木自排局、松戸上本郷(車)局、市川新田局などが25年度以降、上昇傾向を示した。



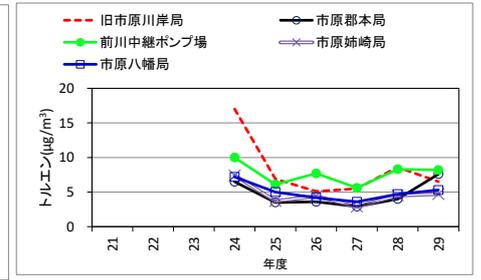
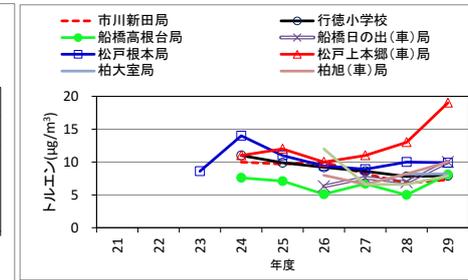
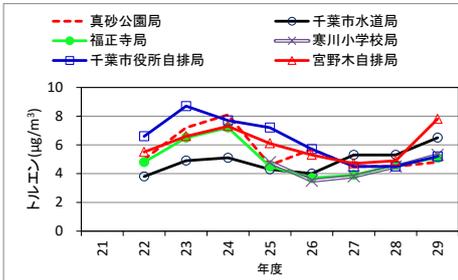
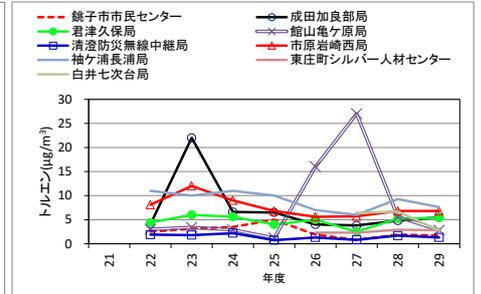
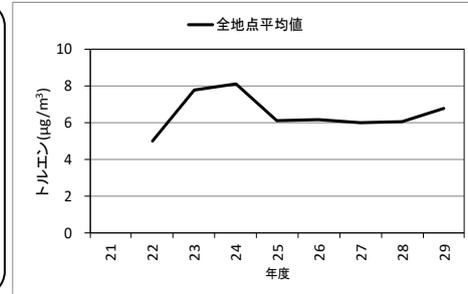
ベリリウム及びその化合物：全地点平均では、平成22、26年度に大きく上昇する変動を示した。地点別では、千葉市の地点は、23、26年度に上昇する傾向があった。また、22年度の館山亀ヶ原局、市川新田局、26年度の柏市旭(車)局など単年度に高い値を示す地点があった。



クロム及びその化合物: 全地点平均では平成21年度から23年度にかけ上昇し、24年度に減少後、25年度にやや上昇し、その後はほぼ横ばい傾向を示した。29年度は濃度の高い千葉市の地点が参考値となったため、平均値は減少した。地点別では、市原郡本局は減少傾向を示し、市原岩崎西局、福正寺局、寒川小学校局は29年度に大きく増加した。他の地点は横ばい、あるいは微増の傾向を示した。



トルエン: 全地点平均では平成24年度にピークとなり、25年度以降は横ばい傾向を示した。地点別では、25年度以降横ばいの地点が多い。上昇傾向を示したのは、松戸上本郷局、千葉市水道局、寒川小学校局、29年度に上昇したのは宮野木自排局、市原郡本局であった。



塩化メチル: 全地点平均では測定を始めた平成23年から濃度の変化は小さくほぼ横ばいの傾向を示した。各地点の結果も変動が小さかった。

